

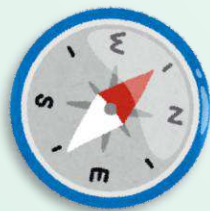


第5期管理職養成学校ニュース

連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町2-5-6-902 2025年12月22日発行
電話 06-6772-1360 Fax 06-6772-1376 e-mail jimukyoku1@f-zenkoku.net

Vol.4

～第3講座～



8月にスタートした養成学校ですが、第3講座は1泊研修ということで11/20（木）～21（金）に全国から受講生23名（1名オンライン参加）が京都府与謝野町に集合しました。開校以来、オンラインでの自主ゼミ・講座参加での交流は活発に行われていましたが、受講生同士が実際に会うのは今回初めてで、喜びの対面でした。2日間好天に恵まれ、秋晴れのもと開催することができたことも何よりです。又、ご多忙中、多岐にわたる学校運営へのご協力を賜りましたよさのうみ福祉会の青木理事長はじめ利用者、職員の皆様に、全国会議研修委員・養成学校事務局一同厚く御礼申し上げます。

～第3講座のねらい～

- ① 福祉施設の管理業務である「福祉実践」「教育」「労務」「経営」「運動」について、他法人から学ぶ機会とする。
- ② 社会福祉とは異なる業界の経営・管理業務を学び、管理者としての見識を高める。
- ③ 受講生同士の連帯感、仲間づくりを促進する場とする。

DAY 1

～株式会社シオノ鋳工～



管理職養成学校1泊研修の目玉である「異業種の経営者から学ぶ」講座は、5年連続で株式会社シオノ鋳工社長塩野浩士氏を講師に迎えて実施しました。

受講生は事前にホームページを確認し、ユニークな社長の姿や斬新な会社の様子に触れたうえでの現地入りとなりました。本社工場では鋳物の作業工程を外から見学し、休憩所に掲示された休日取得日数や自己紹介シートなど、福祉の職場ではあまり目にしない工夫に多くの気づきがありました。

新工場（ラボ棟）での講義では、リーマンショック時に社員と共に経営理念を考えたことや、体調を崩す社員が増えたことをきっかけに給食提供を始めたことなど、社員を大切にしたいという思いが語られました。仕事以外の関係づくりや丹後地域を活性化させたいという思いも含め、「目から鱗」の話が続き、福祉現場でも参考になる学びの多い講義となりました。塩野社長のような「社員思い」の魅力的な管理職になりたい」と感じる時間でした。

～リフレかやの里～「リフレかやの里」の農産加工場は、地元を中心とした農産物をジュースやジャムなどに加工している工場でなかまが仕事をしている様子を見たかったのですが、なんと「インフルエンザの予防接種」だったとのことで、私たちに仕事を通して感じていることを書いたメッセージを矢嶋管理者が代読してくれました。「仕事」は大変だけどやりがいをもっていることが伝わってくるメッセージでした。

～夢織の郷～ 場所を夢織の郷に移し、藤原管理者の講演を聴講。事前にNHK放映の「“おたぎやあさま”のまち」を視聴し、リフレかやの里・よさのうみ福祉会の実践を踏まえた内容でした。新人職員時代の疑問を原点に、「働くことを生活の柱に」「仕事は目的ではなく手段」という思い、そして「高い給料」「やりがい」「地域になくてはならない存在」を目指す考えが語られました。

～プレゼン～ テーマは「組織運営を語る」。聞き手は地域住民。順番はくじ引き、3分間のリアルプレゼンに挑戦しました。「緊張した」「対面の方が伝えやすかった」などの声も多く、対面研修の強みを実感する時間となりました。

～かや山の家～ 宿泊場所に移動して、夜の懇親会。おいしい食事とおしゃれな雰囲気、ゼミごとに分かれみんなのトークも大いに盛り上がりしました。2次会、3次会とうつる方たちや、第5講座で発表する「ゼミ発表」の撮影するゼミも。長い1日でしたが、皆さん心地よい疲れとなり、温かい布団に入っていました。

事務局の舞台裏

社会福祉法人さざんか福祉会 五藤 清子

振り返れば私自身が「管理職養成学校」の受講生として申し込もうと思っていた矢先…。『事務局に入っ
て学ばない？』と半分言い含められて…同友会時代から事務局に参加させていただきました。なので、受講
生さんと同じ目線で学んでいるという感じの私です。期を重ねるごとに学校が充実していくと実感。分野を
超えてゼミや仲間とつながる受講生さんは頼もしく、とても丁寧な学びの場となっています。

♡来期の受講生募集とともに新しい事務局もただいま絶賛大募集です！



地域と共に歩む社会福祉法人の姿

DAY 2

地域共生を“場”から学ぶ

2日目は、地域共生型福祉施設「やすらの里」に会場を移しました。講義に先立ち施設見学を行い、同一敷地内で複数法人が協働しながら運営されている全国的にも珍しい施設を見学しました。

敷地内では、喫茶店の運営、清掃、食事づくり、地域の独居高齢者等への配食事業などを通じて障がい者雇用が行われ、利用者である子ども・高齢者・障がい者と地域住民が、敷地内外で自然に交流する姿が見られました。国が制度として掲げる地域共生ではなく、暮らしの延長線上にある本来の地域共生の姿が、ここ「やすらの里」には確かに存在していることを実感する時間となりました。



組織運営を“実践”から学ぶ

続いて「組織運営を学ぶ」をテーマに、よさのうみ福祉会の青木博一理事長より講義がありました。

講義前半では、倒産した施設「リフレかやの里」の再建に、なかまの仕事保障のためにも福祉会として関わろうと決意した経過や、農福連携を取り入れ、地域のニーズに応える形で事業を展開してきた福祉経営実践について語られました。また、「やすらの里」ができるまでの過程には、与謝野町における福祉事業者の「福祉力」、住みよい町を願う地域住民の「自治力」、公的な役割と責任を果たす行政の「行政力」という三位一体の基盤があったからこそ現在の姿であることを学びました。施設づくりの過程で、たいへん悔しい思いをした当時のことを涙ながらに語られる青木理事長の姿は、受講生一人ひとりの心に深く響きました。

講義後半では、養護学校づくり運動から始まる与謝野町における長年の地域づくりの歴史、「よさのうみ福祉会」の設立、理念づくり、そして理念に基づくより良い組織運営づくりの取り組みについて、良かったことも悪かったことも包み隠さず語られました。その言葉は大きな学びとして受講生に受け止められ、自分たちの地域では何が実践できるのだろうか考える機会となりました。

長年にわたり、この管理職養成学校第3講座のフィールドワークを引き受けてくださったよさのうみ福祉会の皆様に、心より感謝申し上げます。

次回：第4講座

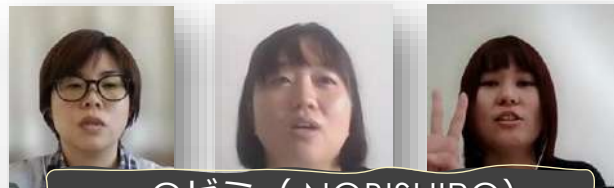
「財務分析と事業計画」

2025年12月18日(木)

講師：中央会計税理士法人・

株式会社大阪中央会計事務所 山本匡人氏

職員会議を想定し、財務計画を3分で伝えるプレゼンを行います



Cゼミ (NOBISHIRO)

